

校歌

- 一、 蒼溟遠き波の涯
たてり大和の秋津洲
そのうるはしき名を負へる
黒潮たぎる絶東に
栄光の歴史は三千年
蜻蛉男児に榮えあれ
 - 二、 時の流れは強うして
自治を命の若人は
山河秀でし此の郷に
この世の旅は長けれど
強き「力」に生くるかな
礎 固し我が母校
 - 三、 暁こめて鳴り出でし
世の先驅者の名に恥ぢず
移らふ星を数べて
時代の鐘を身にしめて
心を磨き身を鍛へ
守るも久し深志城
 - 四、 朝に仰ぐ檜嶽に
夕筑摩の野を行けば
嗚呼學術の香に集ふ
深き真理を探りつつ
胸に充ちくる想華あり
契りも深き友九百
 - 五、 古城空しく苔古りて
清き心のひとすぢに
自治の大旗翻し
濁世の波は高けれど
志あるますらは
前途遙かに望む哉
- ### 祝記念祭歌
- 一、 めぐりきぬ今年の秋の記念祭
うれひを友とわかつべく
命の歌を歌はばや
悲しみ多き若き日の
この丘の上にうちつどひ
 - 二、 逝きにしし三年の夢をしのびつつ
あかね色なす星屑は
遠き思ひを語るかな
夕べの丘に迷う時
われらの上にまたたきて
 - 三、 とこしへにかわらぬ理想胸に秘め
友と真理を語る時
涙にほほをぬらすかな
くれゆく空を仰ぎつつ
若き血潮は高鳴りて
 - 四、 いざ友よこのひとときをかぎりとして
千草乱るる丘の上
トンボの祭り祝はばや
わかき命のつきぬまに
今宵の幸を歌はばや

とんぼ祭記念の歌

- 一、 求めてやまない智の聖火を
より新しく より強く より明らかに
あゝ我らのしるし とんぼ祭
常にもやして進もう
 - 二、 友らときわめる真理の倫も
より美しく より強く より結ばれて
あゝ輝くしるし とんぼ祭
愛のきずなを歩もう
 - 三、 先驅者をさけぶ荒野のみに
やがてみち無きみちを行く努めのため
あゝ錬磨のしるし とんぼ祭
その足跡を慕おう
 - 四、 めざすははるかな星にあるとも
このアルプスの郷曲の このファイター
あゝ理想のしるし とんぼ祭
ゆくて信じて進もう
- ### とんぼ祭賛歌
- 一、 岡は晴れたり吹く風に
光にすきてうつろいし
見よめぐりこしこの年の
いざやつどひて歌ひなん
流れて白き雲の影
トンボの群れの数なべて
すでにさやけき秋の風
 - 二、 遠きまことをたづねつつ
想ひひそめてはげみたる
はたうるわしき成果見よ
共にたたえて歌ひなん
そのかんばせの影ふかみ
ひととせ毎につつましき
そのさえわたる眼もて
 - 三、 ゆきまどひたる現世に
我らが自治をとこしえに
さががけの後しのびつつ
声もろともに歌ひなん
輝きうせぬ星影の
命あらたにはぐくまん
ここに集ひし我が友よ
 - 四、 岡にあふるる秋の陽の
ちまたはるけく見下して
たうとき若さみなぎりぬ
共にたたえて歌ひなん
にごりにしまぬすがしさに
立てるあきつの若人の
榮えあるかわが祭